

1 審議会名	令和元年度(第6期)第8回上田市上下水道審議会
2 日時	令和元年12月11日 午後2時から午後3時30分まで
3 会場	真田地域自治センター 3階 講堂
4 出席者	大口委員、掛川委員、梶村委員、金井委員、甲田(京)委員、 小林(裕)委員、高寺委員、高橋委員、田中委員、西澤委員、 布施委員、堀内委員、本間委員、松本委員
5 市側出席者	柏木上下水道局長、城下経営管理課長、山口サービス課長、 小井土上水道課長、藤極下水道課長、芳池丸子・武石上下水道課長 (以下経営管理課)黒岩課長補佐兼経理担当係長、真壁課長補佐兼経理担当係長、 青井庶務係長、庶務係清水
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和元年12月13日
協 議 事 項 等	

1 開会

2 会長あいさつ

- ・ 前回、「上田市上下水道事業経営戦略(改訂版)」の上水道事業の部分の説明があり、今回は下水道事業の説明がされる。
- ・ 経営戦略の見直しについての審議は、今回と次回の2回の予定となる。

3 議事

(1) これまでの意見・質問に対する回答について

○事務局より資料1、資料2に基づき審議委員からの意見・質問に対し回答

資料1：台風19号被害状況

資料2：平成30年度 水道事業会計・公共下水道会計・農業集落排水事業会計 合算表

- ・ 委員からの意見・質問なし

(2) 上田市上下水道事業経営戦略の見直し(案)について

○事務局より事前に送付した冊子に基づき下水道事業について説明

- ・ 委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) 下水道事業の投資・財政計画について、基本となる10年後の数値は、例えば懸念される人口減など何に基づいて計算しているのか。

(事務局) 冊子の30ページの表中の有収水量合計(料金が取れた水量)の数値、令和元年15,320千 m^3 、令和11年15,359千 m^3 、それに対し水洗化人口については、令和元年度141,863人、令和11年143,461人となっている。人口については若干増えているが、有収水量は横ばいである。人口は増えているが今後節水機器などがさらに普及してきて一人当たりの水量については若干減少するとみている。

ただし、水道事業と違うところは、水道は100%利用されているが、下水道についてはまだ繋ぎ込みをしていない家庭がまだかなりあるので、普及活動をすることによって繋ぎ込みをしてもらうことを前提で、水道ほどは水洗化人口が減らないという前提の基に作成している。したがって、下

水道使用量も令和元年と令和11年の値は同じような数字になっていく。

(委員) 人口はあまり変わっていないが、本来はもっと人口が減っていくのではないか。

(事務局) 人口自体は減っていくと思われるが、繋ぎ込んでいない方が繋いでもらうことによって使用する方が増える。そうすると、自然減で減った分と繋ぎ込んだ分を差し引きするとほぼ横ばいであると見込んでいる。

○事務局より経営比較分析表について説明

・委員からの意見・質問なし

(3) パブリックコメントについて

○事務局より資料3に基づき説明

・委員からの意見・質問なし

4 その他

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) 今後、電線の地中化という方向で動いていくと思われるが、その場合に上下水道と連携し費用を出し合いながら工事をするなどすれば費用的なメリットもあると思われる。そうことを話し合う余地はあるか。

(事務局) 今、上田市で電線の地中化の工事が着手されているのは、上田橋から青木方面にむけての国道143号線。工事はまだだが予定されているのが、上田橋からアリオ前を通過してしなの鉄道のガード下の線と鷹匠町から一部工事が完了しているが最終的にはジャスコ前まで地中化が予定されている。それに合わせて、上下水道管の古いところを併せて行う場合もあるが、歩道に地中化するため、現在歩道に埋設してある既存の上下水道管が支障となり、先に移設工事を行う必要がある。県道の場合、全て建設事務所で発注するため、県から移転の補償費をもらい上下水道管の入れ直しをしている。老朽化しておらず入れ直す必要はない路線もいくつかあるが、老朽化して入れ直す路線もある。いずれにせよ、県から移設の補償費をもらい、先行で上下水道管を移設して歩道に埋設物がない状態にしてから電線の地中化共同管工事が始められている。

(事務局) 次回審議会の開催日程等を説明

5 閉会

以上